

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

【千年の森・J-wings】

群馬県昭和村にある民間の宿泊施設「千年の森・J-wings」を紹介します。場所は、赤城山の北西、標高750mの高原に位置し、昭和ICから車で8分のところにあります。施設としては、築100年の古民家のクラブハウスを中心に人工芝サッカーグラウンド2面を有し、年間を通して様々なグラウンドスポーツに対応可能です。子どもからシニアまでスポーツを楽しめ、サッカーだけでなく様々な用途で利用できる「スポーツ総合施設」です。また、千年の森J-wingsには、赤城の施設にもあるプロジェクトアドベンチャーのエレメントが多種多様あります。ローエレメントとハイエレメントの両方を有し、数も豊富ですので、一度に100名まで活動することができます。学校の宿泊学習や企業の研修でも利用することができます。冬場もほとんど降雪がありませんので、野外の活動も十分行うことができます。ハイエレメント（高いところでのプログラム）にチャレンジしたい方はぜひご利用ください。（文：阿左見）



- 所要時間: 交流の家から車で1時間
- 住所: 〒379-1205 群馬県利根郡昭和村川額3716-595
- TEL: 0278-21-2377
- ホームページ: <http://www.j-wings-sc.com/>

リレーcolumn すたっぷの目

『自然に触れる』

文: 織間 美和
【おりま みわ】



私は赤城山の麓で育ちました。幼少の頃にはまだ家の近所の川で蛍が見られ、夏は夜になると家族で蛍狩りに行くのが楽しみでした。また、家の周りは桑畑が多く、学校の帰りにはよく桑の実を食べて服を汚していました。あれから数十年が経ち、蛍も桑畑も同じ場所からは消え、周囲の環境は大きく変わりました。また、子どもたちの遊びも変わり、一言で言えば都会と変わらなくなりました。時代とともに社会環境が変化していくのは当然ですが、今ほどの地域でも、子どもも大人も日常生活の中で自然に親しむことが少なくなっているように感じます。交流の家には豊かな自然があります。ぜひ一人でも多くの方にいらしていただきたいです。

誰よりも落ち着いていて、だけの確かな意見をびしと言ってくれる赤城にはなくてはならない存在です！

つぶやき

【テーマ：最近思うこと】

- 今年のテーマは「挑戦」です。今までのことをこれからにどう繋げていくか。新しいことに挑戦していきます。（木暮）
- あつという間の1年でした。色々なことがあったけど大きなケガもなく病気にもならず、良かったと思います。（松崎）
- 年度末、希望と涙の「サクラ サク〜。」（鈴木）
- 交流の家の講堂、畳などがきれいになり、自分も今年2年目になるにあたり、心も体も「進化していくぞ！」と思っています。（田野崎）
- 年末に諏訪大社の二社四宮すべてを参拝してきました。この春には七年に一度の御祭祭があるそうで、ぜひ再訪したいと思っています。（原田）
- 最近1年が過ぎるのがあつという間に感じるの、歳のせいでしょうか。（阿左見）
- ようやく冬らしくなりました。やはり冬は寒くない！と言いつつ布団から出る時だけは春が恋しくなります。（手島）
- 席が前の職員にいつの間にか山好きにされていました。4月からの10ヶ月でそれまでの登山回数を超えました。（田中）
- 今年の冬にやりたいことは、なんといってもワカサギ釣りですが、赤城大沼の結氷が遅く心配ですね。（杉浦）
- 赤城から見える冬の夜景は、春の桜、秋の紅葉に負けず劣らず美しいです！（織間）
- 交流の家はたくさんのボランティアさんに支えられて成り立っています。いつも本当にありがとうございます。（江原）
- 陽だまりに 思いにふけり 赤城山 めぐる年月 春はまた来て（高瀬）
- 赤城に来て2年が経ちます。あつという間でした。あと1年新しいことにチャレンジしていきたいです。（根本）
- 私は、大胡から見た赤城山が大好きです。そういえばまだ、沼田から赤城山を見ていなかった。（新井）
- 赤城で初めての冬…本番はこれから！？寒さに備えて蓄えます。（渡邊）
- 去年、引越をしました。子どもと一緒に自宅の周辺を散歩するのが最近の楽しみです。（高橋）
- 最近自炊を頑張ってます。和食が中心ですが、基礎的な料理をきちんと作れるようになりたいですね。（大濱）
- リンカーンが言った、「他人の自由を否定するものは、自ら自由を受けるに値しない」と。僕は人の自由を否定しない。（落合）
- 27年度も残りわずかとなり、ふりかえってみれば予定表より突発的なことに振り回され、予定通りにはいかないことばかりでした。（佐藤）
- 寒くなると実家の猫が一層恋しくなります。実際に会うと冷たいですが。（森田）
- 外は大雪、身も心も凍えてしまう季節です。ひとつの別れが訪れて、また一つの出会いが始まります。春、待遠しい赤城の庭より…（今井）
- 気づいたら3年とちよっと。成長したか？無駄にしてないか？（黛）

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



Mido A.

「福寿草」

正月の花と勘違いされることも多いが実際は「早春の花」と呼ばれている。寒い時期に雪の下から黄色の可憐な花がのぞくのを見たことがある人も多いのではないだろうか。

古くから縁起の良い花と言われ、花言葉は「幸福」と「長寿」集まるように咲く姿も魅力的で福寿草の群生地などもあるくらいだ。早春の時期にしか見られない春一番をぜひ見つけてみてほしい。

次号は、4月1日発行予定！

風のおと

『とんとんのまち』

前橋市に住んで早2年が経ちます。「暑いよ、寒いよ」と言われて来ましたが、「思ったより暑く、思ったほど寒くない」というのが2年過ごしての実感です。何より食べ物美味しく物価も高くなく、お医者さんも多くて住みよい街だとつくづく感じています。

また、前橋市が“とんとんのまち”であると赴任してすぐに聞かされ、豚肉料理の美味しい店を今までもたくさん利用しています。市のマスコットキャラクター「ころとん」とともに市民の認知も高まっていますが同市が全国有数の豚肉の生産地であるということは、よく知られていないみたいです。

している浜松市とは27万人も人口は少ないのです。生産地であり、且つ消費地でもあることがまさにそのまちの名物と言えるのでしょう。調べてみると、前橋市はマグロや乳酸菌飲料も全国トップクラスの消費地ですよ。知ってました？

前橋市の豚肉料理のNo. 1を決める“T-1グランプリ”も今年で第7回になります。投票に参加すべく職場の仲間とエントリー料理の食べ歩きを始めています。

所長 杉浦俊之

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>
 TEL:027-289-7224 (9:00~18:00) FAX:027-289-7226
 〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

体験の風をおこそう



あかぎ カラゴロリ

検索



H27 国立赤城青少年交流の家 ふみだす探検隊ぐんまアドベンチャーキャンプ

～未来をつくる、力を育てる。ふみだす探検隊！～

「ふみだす探検隊」は、未来の福島を支える人材育成を行う教育事業です。

東日本大震災復興支援財団が協賛している「福島こども力(りょく)プロジェクト」。国立赤城青少年交流の家では、平成25年からスタートし、今年で3年目となります。延べ15回、783名の子どもたちが群馬へやってきました。

当施設では、群馬の誇る「人のあたたかさ」、「豊かな自然」を堪能できるプログラムを実施してきました。県内の青少年教育施設や、自然学校、企業、民宿など様々な人たちの協力なしには、成功できないプログラムばかりでした。昨年までは県内の南牧(なんもく)村、嬭恋(つまごい)村、赤城山、榛名山をフィールドに山登りや、雪遊び、カッター乗船などたくさんの体験を提供してきました。

3年目の今年は「様々な体験を通して、福島未来を担う人材を育てる」がテーマです。パーティ会場をゼロから作ったり、ウイナーを自分で作ったり、子どもたち自身が作り上げる機会を増やしました。

「ここはこうした方がいいよね。」「時間が余ったから片付けしようか。」そんな話し合いが子どもたちから自然と生まれてきます。子どもたちの「想像力」が「未来をつくる原動力」になることを、肌で感じたキャンプでした。

保護者の方からは、「外で遊ばせるのはまだ不安。子どもたち同士が元気に遊びまわられるキャンプはありがたい」という、ご意見もあります。

今年で最後となる事業ですが、福島未来づくりと子どもたちの成長には何らかの形で関わっていきたいと思います。今まで活動を支えてくださった団体、地域、ボランティア・スタッフのみなさま、本当にありがとうございました。(文：山田)

【今までの協力団体】
赤城自然塾、サンデンフォレスト、ぐんま山森自然楽校、アドベンチャー集団Do!、前橋市赤城少年自然の家、ロッジふり～たいむ、赤城法人ボランティア、嬭恋村、南牧村、赤城山エコツアー推進協議会 (順不同)



【今後の動き】 下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください⇒TEL：027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

～お知らせ～

■自然体験フォーラム2016
2月13日(土)～14日(日) 1泊2日
対象：高校生以上
※託児がありますので、お子様連れの方もご参加いただけます。(有料)

群馬県、及び関東甲信越の自然体験に関わっている、またはこれから関わりたい人たちが一堂に会し、情報交換やネットワーク構築の機会を提供します。

■カラゴロリが季刊誌になります！！
2016年4月に発行する号から、カラゴロリは季刊誌に生まれ変わります。今までの年6回発行から、年4回の発行となります。

春号→4月発行、夏号→7月発行、秋号→10月発行、冬号→1月発行

これからのカラゴロリは・・・
◎年4回発行になることにより、今まで以上に中身の充実をはかります。
◎ますます読者の皆さんが見やすい紙面づくりをします。
◎地域とのつながり、施設の情報がわかりやすく伝わるニュースレターにします。

プログラム紹介！



【お蚕プログラム】

富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産・国宝となりました。当施設利用の折、活動が終わり、帰る前に富岡製糸場見学へ行く利用団体が増えてきています。

前橋市富士見町では昔から養蚕が盛んに行われてきました。富岡製糸場のような大きな工場が出来る前は日本各地で「座繰り」という手法で繭から糸をとっていました。その歴史は長く、今でも富士見町とその周辺の地域で行われています。

当施設では、お蚕さんの一生がわかる展示やDVDの貸し出し、情報提供(解説など)も行っています。ぜひ、お蚕さんや養蚕の歴史を知ってから、富岡製糸場へ出かけてみてください。日本を支えてきた産業を身近に感じられるかもしれません。(文：黛)

- 【当施設で貸し出しをしているDVD一覧】
- ・お蚕の一生を知るシリーズ(低学年～大人向け)
 - ・昔の養蚕農家の暮らしを知るシリーズ(高学年～大人向け)
 - ・絹産業遺産群について知るシリーズ(高学年～大人向け)

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 ボランティア

山田 彩加さん (ボランティアネーム:あや)



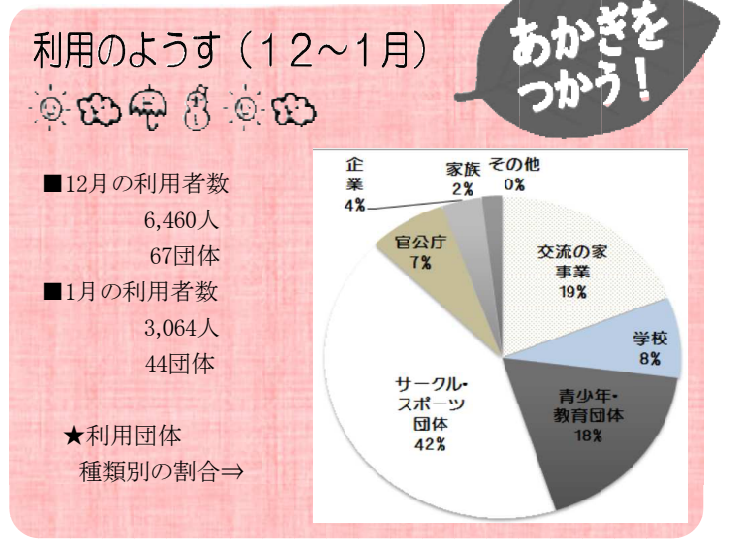
あやは高校2年生。赤城の法人ボランティアになって1年が経ちます。ボランティアのきっかけは学校の先輩に何か課外活動をしなさいといけなと相談したらすすめてくれたそうです。初めてのキャンプは「ふみだす探検隊」。不安でいっぱいだった中、スタッフのアドバイスもあって、楽しくそして学びのある4日間を過ごせたと話してくれました。

子どもたちが大好きで、キャンプ1つ1つに対しても熱い思いをもっているあや。これからのさらなる活躍が楽しみです！

ボランティアの1番の魅力は、学校以外の人とのつながりを作れること。そう話すあやは、積極的に周りの人に話しかけてたくさんの人と交流しています。あやの頑張る姿や素敵な笑顔は、思わずまわりの人まで元気にします。

あやが大切にしている言葉の中に「やるかやらないか迷ったらやる」という言葉があり、これは恩師からの言葉だそうです。ボランティアをやるか迷っている方は、ぜひ「やる」を選択して、魅力あふれるあやとたくさん話してみてください。

(文：落合)



施設周辺の植物

暖かい日が続いていましたが、ようやく交流の家にも冬が訪れてきました。風に揺られていた葉は、すっかり落ちて静かな世界が広がっています。

1月中旬には雪も降り、赤城らしい寒さになってきました。そのような環境の中でも、花を咲かせるのは臘梅(ロウバイ)です。甘い香りと輝くような黄色い花びらは冬であることを忘れてしまいます。

12月下旬から3月が見頃とされていますが交流の家にある臘梅は、ぼつぼつと開き始めています。沢山の蕾が咲き終わってしまう前に匂いの香りを堪能してみたいか。 (文：渡邊)



野外活動におけるリスクマネジメント 入門編 最終回

『あえて「リスク」をとる』

安全管理というと「危ないことはさせない」ととらえていませんか。私たちは自然体験の機会であるからこそ、「あえて危ないことをやってみる」ことを子どもたちにさせたいと思い、リスクマネジメントという取り組みをしています。

リスクをゼロにするのは何もしないこと、でも、危ないことをしてみるからこそ、本当の怖さや大変さ、達成感や感動が得られるのです。これを行うには、下見をして、試行をして、修正をかけて、どうやったら「どきどき感」を残したまま子どもたちに体験してもらえるか、しっかり準備します。

この工程をふんではじめて、私たちは自信を持って活動を提供できるのです。子どもたちの「どきどき、わくわく」をどれだけ保証できるか、それは私たち大人がどれだけ「本気」で「体験させたい」と思っているかがカギを握っています。

(文：高瀬)



※今回の号で野外活動におけるリスクマネジメントのコーナーは終了とさせていただきます。